令和6年度 東京都立府中東高等学校経営報告

東京都立府中東高等学校長
小林 和人

1 経営目標と取組内容

（1）今年度の教育目標と方策

学習指導の充実、生活指導・教育相談の充実、進路指導の充実、特別活動・部活動の充実、関係諸機関との連携・広報活動の充実という目標達成にむけて、学習到達度や進路結果、部活動の成果などに対して高い目標を掲げ、教職員が一丸となって生徒主体の教育活動を展開する。

（2）各項目の取組内容等

① 学習指導の充実

・年間指導計画に基づく授業を計画的に行った。毎時間授業の「ねらい」を明確にすることで、基礎学力の定着と学力向上を図った。

・生徒による授業評価アンケート結果及び学校評価アンケート結果を踏まえ、授業改善に取り組んだ。

・年間5回のスタディサポートと外部模試の分析会（6月の分析会は全員参加）、通年の教科会の実施をとおして、学習指導の成果検証及び学力向上策の具体化を行い、指導方法の改善にいかした。

・年間3回以上の教員相互の授業見学や、年間2回の学校運営連絡協議会の協議員による授業見学会を実施することによる授業力向上の推進を図った。

・管理職による授業観察をとおした分析と授業観察シートによる授業改善を進めた。

・ICT 機器を活用した授業実践を推進し、実施率が91％（昨年度95％）であった。

・教員のデジタル技術の活用力を高め、座学を担当する教員の42％（昨年度51％）の授業で、一人1台端末を活用する学習を展開した。

・教科代表者会議を定例化し、情報の共有化や端末活用実例の収集を図った。観点別評価について振り返りと再検討を行った。

・1月に、本校教員による端末活用実践例の研修会を開催した。

・府中市選挙管理委員会と連携し、7 月に3年生対象の主権者教育を実施した。

・進路指導部と総合探究検討委員会を中心として、科目「総合的な探究の時間」の組織的・系統的な取組の推進を図った。7月に、3 年生代表6名による課題探究レポート代表者発表会を行った。

・長期休業中の講習や補習を44講座（昨年度47講座）実施し、自習室・学習室や教室を平日は18時すぎまで、土・日曜日も1日開室し、校内の自習環境を整えた。

・漢字検定の生徒全員受験を実施した。今年度2級・準2級合格者25名であった。（昨年度77名）

・学年と進路指導部や英語科が中心となり英語検定の各級の合格を目指した学習指導を推進した。英語検定の受験希望者10名（昨年度41名）を対象とした校内での英語検定を実施した。校内・校外あわせて、今年度2級・準2級合格者18名であった。（昨年度37名）

② 生活指導・教育相談の充実

・校内でのあいさつの励行に取り組んだ。

・生活指導部を中心として、他の教員の協力のもと、朝の立ち番による登校指導や身だしなみ指導を行った。また、始業式・終業式や定期考査時において身だしなみ指導を行った。

・セーフティ教室において、SNS 等の利用方法や情報リテラシー教育の充実を図った。

・スクールカウンセラーによる新入生全員面接に加え年間328回（昨年度237回）の教育相談を行うとともに、教育相談推進委員会を年間24回（昨年度21回）開催し、いじめや不登校等の未然防止及び心の悩み相談に組織的・計画的に取り組むなど、相談機能の充実に努めた。
・特別支援教育の視点に立って、支援が必要な生徒には、HR担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等による情報共有を重ね、通級指導1名、コミュニケーション・アシスト1名の指導を実施した。
・スクールカウンセラーによる教職員対象の「小・中学校を中心とした不登校への対応、進学をともなう環境の変化と適応について」・「教育現場で耳にする病名や診断名」という校内研修を実施した。
・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年間3回実施し、いじめの早期発見及び未然防止に組織的・計画的に取り組んだ。
・学校安全計画の全体計画に基づき、消防署、府中市役所、自衛隊、地域住民と連携した防災訓練等、年間4回の避難訓練を実施した。
・教職員を対象とした校内研修を年間3回実施し、人権尊重の精神及びコンプライアンスの徹底と体罰・暴言等の防止を図った。
・都立府中けやきの森学園高等部と本校生徒会執行部との交流会を行い、相手を理解し思いやる気持ちの育成に取り組んだ。

③ 進路指導の充実
・進路指導計画に基づき、進路指導部、学年、教科が協働し、進路指導に計画的に取り組んだ。
・職業人へのインタビューワークショップや探究学習等の実施をとおして、将来の在り方や生き方を考えさせるなど、キャリア教育の充実に努めた。
・各種進路ガイダンス等をとおして進路意識の啓発を図った。
・年間5回のスタディサポートと外部模試の分析会をとおして生徒の学力等の傾向の把握に努め、進路支援にいかした。
・面接週間における二者面談、総合型選抜や学校推薦型選抜に出願する生徒への面接指導をとおして進路希望の実現を支援した。
・教員対象の専門学校研修会や志望理由書の指導法研修会等を開催し、進路指導に役立てる取組を行った。
・高大連携事業は、杏林大学・桜美林大学・東京経済大学と継続中である。今年度も、桜美林大学等の探究アドバイザーによる全体指導や個別指導を実施することで、生徒の課題解決能力の向上を図った。

④ 特別活動・部活動の充実
・学校行事では、帰属意識や参加する喜びが実感できる内容であった。今年度、生徒の学校行事満足度は 86%であった。
・部活動加入率は70%（昨年度63%）であった。
・Sport-Science Promotion Club 指定校に指定されているボクシング部は、令和6年度以下の成績を残した。

関東大会男女出場、女子団体優勝、女子2名優勝
全国高等学校総合体育大会女子1名出場
全日本女子ジュニア選手権大会3名出場、1名準優勝
関東選抜大会男子2名出場

・理数研究校として指定を受けた生物部が、Tokyo サイエンスフェア研究発表会に参加した。また、生物部の活動の様子を紹介するために、研究資料の校内展示を常時行った。
・表現力やプレゼンテーション能力の向上を図る目的で、校内ビブリオバトルを開催し、代表生徒を都大会に出場させる取組を行った。代表生徒は都大会準決勝進出を果たした。

・生徒会が中心となって、地域の夏祭りボランティア・寺子屋ボランティア・小学生下校見守りボランティア・子ども食堂ボランティア等、地域と連携した活動に取り組んだ。（延べ 105 名参加）

⑤ 関係諸機関との連携・広報活動の充実

・府中市選挙管理委員会と連携を図り、3年生対象の主権者教育を実施した。
・防災訓練を実施するにあたり、地域住民や消防署、府中市役所、自衛隊との連携を図った。
・1年生による夏休み前母校訪問を、90校（昨年度96校）の中学校に対して行った。
・夏季休業中4日間の学校見学会と10月以降3日間の学校説明会を実施し、延べ3，654人（昨年度3,517人）の参加者があった。
・八王子市立由井中学校からの上級学校訪問を実施した。
・夏季休業中に88校（昨年度76校）の塾訪問を実施した。
・ホームページを年間 415 回（昨年度395回）更新し、本校の教育活動の様子を、中学生をはじめ広く都民に発信した。

2 数値目標と結果

（1）組織的に進路指導を推進し、希望進路の実現を図る。

○大学入学共通テスト出願者 100名以上	99名（昨年度 83名）
○難関私立大学又は国公立大学合格者 1名以上	2名（昨年度 1名）
○GMARCH 合格者 15名以上	3名（昨年度 8名）
○日東駒専合格者 20名以上	13名（昨年度 16名）
○大東亜帝国合格者 60名以上	78名（昨年度 55名）
○4年制大学への進学率 65%以上	60%（昨年度 63%）
○進路未決定率 6%未満（進学準備を含む）	5%（昨年度 7%）
○就職希望者決定率 100%	100%（昨年度100%）

（2）学習指導の充実を図る。

○長期休業中の補習・講習 60講座以上	44講座（昨年度 47講座）
○図書館利用者数 昨年比10%増以上	年間利用者数 2,206名（昨年度 926名） 貸出冊数 2,119冊（昨年度2，157冊）

（3）基本的な生活習慣の定着を図るとともに、規範意識を育む。

○遅刻 年間延べ人数5.000以下	8,601回（昨年度9，675回）
○特別指導件数 5件以下	13件（昨年度 8件）
○いじめ、体罰 0件	0件（昨年度 1件）

（4）部活動充実校として部活動・特別活動等の充実を図り、学校生活に意欲をもたせる。
（部活動充実校8年目）

○部活動で関東大会レベル出場部数3部以上	1部（昨年度 1部）
○部活動で全国大会出場部数1部以上	1部（昨年度 1部）
○部活動加入率70%以上	69.5%（昨年度63.0%）

（5）本校の教育を広く紹介し、「志」の高い生徒の募集を推進する。

○推薦入試 3.5倍以上	2.97倍（昨年度3.48倍）
○入学者選抜倍率（前期入試） 1.5倍以上	1.26倍（昨年度1.50倍）
○HP 年間アクセス 65万回以上	69万回（昨年度63万回）
○学校説明会等の来場者数 3，600名以上	3，654人（昨年度3，517名）

（6）組織的な学校運営を推進し、生徒や保護者・地域から満足のいく学校をつくる。

○生徒学校満足度 93%以上	91%（昨年度91%）
○保護者の学校満足度 90%以上	89%（昨年度85%）

3 次年度以降の課題と改善策

教育目標やスクール・ミッション、スクール・ポリシー、グランドデザインに基づき教育活動を推進している。次年度以降も、教育課程、教科・進路指導を工夫し取り組んでいく。目指すところは、面倒見の良い学校である。

（1）学習指導

・昨年度落ち込んだ大学入学共通テスト出願者数が増加に転じた。次年度以降も、授業や補講・補習をとおして生徒の基礎学力の定着と大学入学共通テストに対応できる学力の養成に取り組む。

・学校での補講・補習のみならず、家庭学習時間の確保に一人1台端末を活用するなど、工夫・改善を図る。

・外部模試を活用した生徒の学力分析を行い、学力の到達目標設定を明確にして共有することで、引き続き学習指導をより効果的な取組に高めていく必要がある。そのためにも、先生方の学力分析会への参加率の向上と、教科会での情報共有をより図るようにする。

・漢字検定や英語検定は、ただ受験するだけでなく、各級の合格対策の見直しを図る。

・進路指導部や総合探究検討委員会を中心とした、科目「総合的な探究の時間」の組織的・系統的な取組の推進を継続して行う。

（2）生活指導・教育相談

・組織的で一貫性のある生活指導を推進していく。特に、学年進行につれて遅刻数の増加やスカート丈・装飾品等に課題のある生徒が散見される現状について、生活指導部と学年とが協力をし、生徒にルールやマナーの励行を徹底させる。特に遅刻指導について、より組織的な取組を推進する。

・いじめや自死の抑止に向け、生徒が SOS を発信しやすい学校づくりや「府中東高校 SNS ルール」の周知徹底の取組をより強化する。

・通級指導の充実をより推進する。また特別支援教育に関して、教育相談推進委員会を中心に、学年・特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー等が連携をとり、すべての教職員が情報の共有を図ることができる校内体制を確立する。

（3）進路指導

・3年間を見通したキャリア教育の全体計画を再度見直し、生徒の実態に即して適宜修正を加えるとともに、進路指導部主導の進路活動や進路行事を組織的に行う。

・大学出張講義や大学別説明会等の計画的な実施を目指すとともに、探究活動の取組をとおしてキャリア教育を充実させ、学びへの探究心をより高めていく。

・保護者へ向けた進路情報の発信について工夫・改善を図り、保護者への進路に関する啓発活動や保護者との連携した指導を充実させる。

（4）特別活動・部活動

・HR活動や部活動、学校行事など、様々な機会を捉えて、学校やHRにおける豊かな人間関係構築の取組をより推進する。

・部活動運営の適性化に向け部活動指導員や外部指導者等を活用し、競技力の向上を図るとともに、部活動顧問の業務改善を図る。

・ボランティア活動と、地域やけやきの森学園高等部との連携・交流の活性化をより推進する。

（5）募集・広報活動・その他

・本校への志望者数を増やすためホームページの充実をはじめとする募集対策活動に力を入れ、入学者選抜における応募倍率の向上を図る。また、出前授業等、中学生を対象とした広報活動の強化を推進する。

・学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価は、学習指導で84％（昨年度82％）、進路指導で90％（昨年度87％）、生活指導で71％（昨年度67％）、学校満足度は91％（昨年度91％）であった。生徒や保護者のニーズや期待を真摯に受け止めるとともに、府中東高校の更なる魅力を創出するような教育活動を引き続き推進していく。

・教職員に対して必要に応じ産業医による面接を実施し、また、計画的な年休取得を推進することにより、在校時間の削減に努め、教職員の心身の健康の保持・増進を図る。